

子高校の生徒などの通学路となっています。金井咲綺さん（6年）は、1年生のときから登下校に利用し、「私ともにある坂」と振り返ります。四季や天気によって変わる景色がお気に入りです。「梅雨の時期に霧に浮かび上がるような光景は、映画の世界みたい」と話し、「これからの季節は紅葉、冬は空気が澄んで朝日がキラキラと輝く様子もきれい」と薦めます。クラスメイトの木暮和花さんたちと楽しく通ったことや、放課後に階段を使ったじゃんけん遊びで盛り上がったことも印象に残っているそう。中島葵衣さんと和田梓さんも、友人と学校での出来事を話したりカニを捕まえて遊んだりしたことが、思い出になっているといます。

子どもたちと坂に住む人たちとの触れ合いも、通学路として使われている時代から続いています。「こんにちは」「おかえり」と声を掛け合い、積雪時には住民は雪かきをして子どもたちの道の確保に努めます。お団子を楽しみに買いに行く人たちが団子坂で交流していたように、今は子どもたちと住民との温かな時間が流れています。

声掛け旗振り 安全見守る地域の姿

通学路となっている坂は市内に多くあり、さまざまな地域で子どもの安全を守っています



ようやと坂
交通安全はあいさつから

ちぎらまさのり
千明正式さん - 栄町 -

坊新田町から栄町にかけて続く「ようやと坂」を下った周辺の安全を見守り十数年。昔と比べて子どもは減っていますが、「おはよう。いってらっしゃい」と呼び掛けると、元気な声や表情を見せてくれる子が多いのは今も変わっていません。数年前に道路が広がり、信号機が付いて安心して渡れることは、地域にとってありがたいことです。

ようやと坂といえば沼田まつり。坊新田町の山車が下ってきたら、栄町の両町で上まで押し上げるのが習わしになっています。



◀上り切るまでもう少し。振り返ると下町と川田方面、子持山が見渡せ、素晴らしい景色に疲れも忘れてしまうほど

▼横から見た団子坂。さまざまな表情を楽しめるのもこの坂の魅力



◀団子坂付近の根岸坂も通学路。火伏せの神の古峰神社がある



▲坂の途中のトンネルは、一風変わった写真スポットにも。榛名坂へ出る道もある



「おばあちゃん」の呼び掛け うれしい

田中すゑさん - 榛名町 -

坂の暮らしは慣れれば良いもの。毎日景色を楽しんでいます。ここにはもう長く住み、登下校する多くの小学生や高校生を見届けてきました。「おばあちゃん、こんにちは」と、明るく声を掛けてもらえるとうれしいものです。水路のカニと遊んでいる子どもたちの姿にも元気をもらっています。